

事後評価点検表

事業名	地域総合オアシス整備事業（熊取地区）
担当部署	泉州農と緑の総合事務所 耕地課（連絡先 072-439-3601 内 295）
事業箇所	熊取町長池(長池、長池下池、弥沢池) 熊取町和田(和田新池、別所池、車谷池) 熊取町成合(皿谷池、寺池) 以上、8箇所
内容	<p>ため池を、農業用施設として活かしつつ、都市生活に“やすらぎ”と“うるおい”を与える地域の貴重な環境資源とするため、府民とともに地域環境づくりを進める「オアシス構想」の一環として、雨山水系の主要なため池 8箇所について、下記の整備を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化したため池の改修：長池、長池下池、和田新池、別所池、東谷池、皿谷池の6箇所 ・ため池の埋立：弥沢池(市民農園)、寺池(奥山雨山自然公園散策等の駐車場)の2箇所 ・巡回道路：長池下池、東谷池の2箇所 ・親水護岸等：長池、別所池の2箇所
関連事業とその現状	なし
社会経済情勢の変化	<p>＜平成7年（事業採択年度）から平成22年の推移＞ ※農業センサス調べ 熊取町の人口については、45,072人から40,850人と約9%の減少（4,222人減）となっている。一方、農家数については、354戸から314戸と約11%の減少（40戸減）となっており、人口減少の割合より若干高くなっている。</p> <p>また、農業の担い手である基幹的農業従事者数については、212人から139人と約35%の減少（73人減）と減少割合が大きくなっている。さらに、60歳以上の割合を見ると約58%から約81%と著しく増加しており、今後も担い手の減少及び高齢化が危惧される。</p> <p>なお、耕地面積については、247haから202haと約18%減少（45ha減）となっている。</p> <p>平成17年4月に「熊取町野外活動ふれあい広場」が開設され、山や池に囲まれた緑あふれる空間の中で自然体験ができる施設として、ハイキングやオリエンテーリングなど年間約1万人もの方々に利用されている。</p> <p>環境活動や美化活動を行う団体について、事業採択以前は2団体であったが、平成7年以降、新たにため池の保全活動や里山の清掃活動などを行う7団体が設立されるなど、農空間の有する、食料生産・防災・教育・生態系保全・レクリエーションなど様々な公益的機能に対する府民の関心が高まっている。</p> <p>府では、平成20年4月に「大阪府都市農業の推進及び農空間の保全と活用に関する条例」を施行しており、その条例に基づき、平成20年5月に熊取町で「守るべき農空間」として約79haが農空間保全地域に指定されている。</p>

事業実施による環境の変化	<p>本地域は、雨山水系のため池を用水源として、水田農業を営んできた地域で、水稻の他に玉ねぎ、里芋、キャベツ、ふき、水なす等が作付けされており、中でも玉ねぎについては一大生産地を形成している。</p> <p>また、雨山水系のため池は多くの動物や昆虫、植物の生息地であり、ビオトープとしての機能を有している。</p> <p>本地区のため池群は農業生産の主要な水源であるとともに、防火用水、生活用水等の地域用水源として、重要な役割を担っていたが、施設の老朽化や農業従事者の高齢化により施設の維持管理が困難な状況となっていた。また、周辺の市街化が進む中、生活雑排水等の流入によるヘドロの堆積、悪臭など地域環境の悪化の原因となっていた。</p> <p>本事業の実施により、老朽化した施設が更新され、堤体の決壊や溢水による災害を未然に防止し、地域住民の安全・安心な生活環境を確保するとともに農業用水の安定供給や維持管理の省力化が図られ、地域農業の安定化が図られた。</p> <p>また、長池地区（長池、下池、弥沢池）は、計画段階から地域住民や水利組合とともにワークショップ形式により、整備内容を検討し、老朽化したため池の改修とともに、水生植物ゾーン、ネイチャートレイル、オアシス農園、親水広場等が整備され、地域の交流の場となっている。</p> <p>また、平成11年に地域住民らにより「長池オアシス管理会」を設立し、清掃や植栽活動、交流イベントの開催、熊取町立南小学校と連携したため池環境学習などを行っている。</p>
最終評価時の意見具申と府の対応	<p>「意見具申」 事業の継続の必要性が認められ、かつ、事業進捗上も特段の支障が無いと考えられるため「事業継続は妥当」と判断する。</p> <p>計画的に工事進捗していることから、投資効果の面からも事業を早期に完成させることが必要。</p> <p>「対応方針」 事業に必要な予算を確保し、早期に事業完成を図る。</p> <p>「具体的な取組み内容」 予算を確保し、事業の早期完成を図った。</p>

	【最終評価時点 H16】	【事後評価時点 H23】	【分析】
事業費	19.0億円	15.0億円	・ため池改修 10箇所→8箇所。 ・浚渫土等の流用によるコスト縮減や入札差金に伴う減。
①事業期間 ②採択年度 ③着工年度 ④完成年度	① 13年 ② H7年度 ③ H7年度 ④ H19年度	① 12年 ② H7年度 ③ H7年度 ④ H18年度	最終評価時から1年早く完成。
費用便益分析	○費用便益分析 B/C=1.87 ○便益総額 B=35.7億円 ○総費用 C=19.0億円	○費用便益分析 B/C=2.31 ○便益総額 B=34.6億円 ○総費用 C=15.0億円	・ため池の改修により災害防止効果が発揮された。 ・オアシス構想に基づく総合的な整備により、快適な水辺空間が、保全・創造された。
定性的効果	(安全・安心) ・老朽化したため池を改修することで、洪水時における堤体の決壊や溢水被害を未然に防止し、安全な生活環境が形成される。 (活力) ・農業用水の確保を図ると共に施設管理の省力化が図られ地域農業の振興に寄与する。 (快適性) ・水と緑豊かな水辺環境の創出により、良好な生活環境が形成される。	(安全・安心) ・老朽化したため池が改修されたことにより、安全な生活環境が確保された。 (活力) ・農業者の担い手の高齢化が進む中、取水施設等の整備により、維持管理の省力化が図られ、地域農業の振興に寄与した。 (快適性) ・遊歩道整備等に伴い、府民がため池等の水辺に接する機会が増えたことによって、生活環境の改善が図られた。	初期の目的を達成。 初期の目的を達成。 ・地域住民により長池オアシス管理会を平成11年に設立。清掃や植栽などの維持管理、「ため池ふれあいまつり」等のイベントが取り組まれ、地域住民の憩いの場となっている。

定性的効果	(その他) ・魚や野鳥、水生植物等生き物の生息場所が確保できる。 ・歴史的文化遺産であるため池が保全される。 ・ため池をフィールドとした学習活動が行われている。	(その他) ・保全施設の整備等により、生き物の生息場所が確保できた。 ・ため池が保全された。 ・長池オアシス管理会を中心に環境学習が毎年行われている。 ・NPO法人グリーンパーク熊取により、皿谷池下流の「さや池」においてビオトープ池を作り環境学習を展開されている。	・カワセミが池の魚を捕りに来ている。 ・初期の目的を達成。 ・初期の目的を達成。
その他特記事項	平成17年度の計画変更で除外した青池は現在熊取町により整備中。弘法池は、親水空間としての整備を計画していたが、社会情勢の変化等により、管理面等地域合意形成が得られず、計画から除外した。		
評価結果	・ため池の改修により、決壊及び溢水による被害防止や農業用水の安定供給、維持管理の省力化が図られ、事業目的が達成された。 ・オアシス構想に基づく総合的な整備の実施により、快適な水辺環境が保全・創造され、現時点においても、多くの住民に利用されており、事業目的が達成された。		
今後の同種事業に対する改善措置等	・本地区は、水利関係者及び地域住民等で作った「ため池環境づくりワークショップ」により調査・計画を行い、地域住民による活動組織による持続発展的な管理運営が行われているなど、事業効果が発揮されている。同種事業の取り組みにあたっては、本地区での取り組みをモデルに、地域とともに計画、整備をすすめ、住民が積極的に参加できる「場」の設定が重要と考えられる。		